

2020年度第3四半期
テレフォンカンファレンスにおける質疑応答（2021年2月12日開催）

※テレフォンカンファレンス開催日（2021年2月12日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2021年度第3四半期決算に関して

質問	回答
当第3四半期の累計粗利益率は10.7%と、期初の見通しより上振れているが、プラス要因とマイナス要因があれば教えて欲しい。また、当第3四半期での新型コロナウイルスによる追加費用の計上があればあわせて教えて欲しい。	新型コロナウイルスの影響による特段の追加費用や損失はなかった。プラス要因として、工事終盤を迎えている案件の採算改善や、完工した案件におけるコンティンジェンシーの取り崩しなどがあった。
総合エンジニアリング事業の売上高は、新型コロナウイルスの影響からの回復が遅れているが、今後の見通しについて教えて欲しい。	新型コロナウイルスの収束の見通しが立たない中で、断定的なことは申し上げられない。売上高の多くを占めるLNGカナダプロジェクトでは、カナダの建設現場は、州政府の厳しいガイドラインのなかでスローペースながらも工事を進めている。現在のプロジェクトの中心は中国におけるモジュール製作であり、ピークに向けて準備を進めている。その他の案件についても、様々な制約を受けながらも着実に進捗しており、現時点で更なる悪化は見られない。
第4四半期のリスクとして、北米の石油・ガス生産事業の事業資産の見直しを挙げているが、もう少し詳しく教えて欲しい。	簿価として50億円程度の資産（米国・テキサス）であり、今後、12月末時点での原油・ガス価格や埋蔵量を基に評価を行い、会計処理を行っていく予定である。

新型コロナウイルスの影響に関連して、欧州における資機材調達遅れによる収益性の悪化はあるか？	欧州メーカーに発注していた一部の資機材を別の地域にある企業に切り替える例はあったが、その影響は、既に2019年度の決算に織り込んでいる。現状では新たな影響は生じていない。
上半期と比較して、機能材製造事業における第3四半期の減収幅が拡大しているが、理由を教えてください。また、減収幅と比較して、利益率の低下は軽微に留まっているように見受けられるが、あわせて理由を教えてください。期初見通しに対して、セグメント利益が上振れる可能性はあるか？	機能材製造事業の売上高については、金額規模を考慮するとそれほど顕著に変動しているとは考えておらず、期初見通しの範囲内として捉えている。結果的にセグメント利益が上振れる可能性はあるが、現時点で断定的なことは申し上げられない。
第3四半期に株式売却益として計上しているが、背景について教えてください。	保有する政策保有株について、保有意義などを個別に検討したうえで売却判断を行っている。基本的に政策保有株式は減らしていく方向にある。
第3四半期時点で現預金の額が3,000億円近くに達しているが、使途について教えてください。	第3四半期の現預金の増加は、主に顧客からの前受金によるものであり、工事遂行に充当する。手元資金の在り方と成長戦略投資に関する方針については、5月に発表予定の新中期経営計画のなかで説明させて頂きたい。

2. 受注・マーケット環境

質問	回答
第4四半期に海外で受注が期待できる案件はあるか？また、2021年度の見通しについても教えてください。LNG案件は、今後も出てくるか。	顧客の設備投資動向は依然として不透明感が強く、特に海外において、案件の進展が全体的に後ろ倒し気味となっている。第4四半期は、国内の大型バイオマス発電案件の受注を期待している。 2021年度のマーケット環境に関しては、現時点で断定的なことを申し上げる状況にない。ただ、中長期的には、新興国を中心にLNG需要増などにより、LNG案件の進展が期待できる。

決算短信 12 ページに記載がある、海外 LNG 関係の第 3 四半期連結累計受注高（133 億円）が、第 2 四半期と比較して減少している理由を教えてください。

主に LNG カナダプロジェクトにおけるチェンジオーダーの見込み額を受注高として計上しており、四半期毎に原価との差異の見直しを行っている。第 3 四半期についても見直しを行った結果、少額であるが減少した。

以 上